

## ラオス国ビエンチャン県における僻地住民健康実相調査

西山 利正<sup>1</sup> 林 栄二<sup>2</sup> 神田 靖士<sup>1</sup> 石田 高明<sup>1</sup> 李 権二<sup>3</sup>  
 椋 清美<sup>4</sup> シソントン プアトン<sup>5</sup> 天野 博之<sup>1</sup>

関西医科大学 公衆衛生学教室<sup>1</sup> 東京医科歯科大学医学部<sup>2</sup> 東京大学医科学研究所<sup>3</sup>  
 国立感染症研究所<sup>4</sup> ラオス保健省治療局<sup>5</sup>

はじめに：発展途上国の僻地農村における健康調査は、現地へのアクセスの悪さから医療機器の調査地搬入が困難であるのと、電気の使用が困難なことから、身長・体重といった検査、内科的理学的検査が主体であり、得られる情報には限界があった。今回、我々は発展途上国で僻地住民健康調査で応用可能な血液学検査法の応用・開発を行いその企画化を試みた。材料ならびに方法：対象はラオス人民共和国ビエンチャン県ヒンフープ郡ポンムアン村の住民（中地ラオ族）424名中、本移動診療所に来院した男性203名、女性184名（計387名）であった。調査項目は身長、体重、血圧、内科的診察、マラリア簡易迅速診断法、ろ紙法による血液生化学検査 { 肝機能(ALT, AST,  $\gamma$ -GTP)、LDH、腎機能(BUN, クレアチニン)、脂質（総コレステロール、中性脂肪）}、血液学的検査としてヘモグロビン量、血清免疫学的検査法としてHBs抗原、HCV抗体}、赤痢アメーバ抗体などの測定を行った。また、便を持ってきた317名に対し消化管寄生虫検査を厚層塗沫法、MGL法で行った。なお、受診者全員にメベンダゾール500mg、1回投与を行った。結果：内科的診察において、呼吸器系疾患（21.0%）、筋・骨格系疾患（13.0%）消化器系疾患（10.5%）、マラリア（5.0%）、赤痢アメーバ症（3.6%）であった。血液生化学検査ではALT( $22.7 \pm 7.1$  IU/l, n=221)、AST( $29.2 \pm 10.9$  IU/l, n=221)、 $\gamma$ -GTP( $38.8 \pm 32.6$  IU/l, n=221)、BUN ( $11.8 \pm 4.4$  mg/dl, n=221)、クレアチニン( $0.56 \pm 0.23$  mg/dl, n=221)、総コレステロール ( $146.1 \pm 0.23$  mg/dl, n=220)、中性脂肪( $121.3 \pm 30.1$  mg/dl, n=220)、血液学的検査ではヘモグロビン量( $13.1 \pm 1.7$  g/dl, n=221)であった。さらに肝機能異常者5名につき肝炎ウイルス精密検査を行ったところうち1名がHBs抗原陽性であった。また、消化管寄生虫検査では、回虫卵陽性（21.8%）、鞭虫卵陽性（31.2%）、鉤虫卵陽性（20.5%）であった。考案：内科的理学的所見と自覚症状から、呼吸器系疾患、筋・骨格系疾患、消化器系疾患の順に認められた。これは、この村の住民が農業並びに森林伐採業をしていることによると思われる。また、血液生化学検査では、明らかな肝機能異常者が約5名みとめられ、うち1名がHbs抗原陽性であった。腎機能検査では1名がクレアチニン2mg/dlを越え、明らかな異常を認めた。脂質代謝異常は総コレステロールは1名が250mg/dlを越え、明らかな高値を示した。ただ、中性脂肪が150mg/dlを越える住民が多数みられたが、これは検査当日の食事による影響と考えられる。消化管寄生虫検査では、回虫、鞭虫、鉤虫が比較的高率に罹患していた。

---

The study of health status for the inhabitants of rural areas on Vientiane province in Lao P.D.R.

TOSHIMASA NISHIYAMA

Department of Public Health, Kansai Medical University, Osaka, Japan